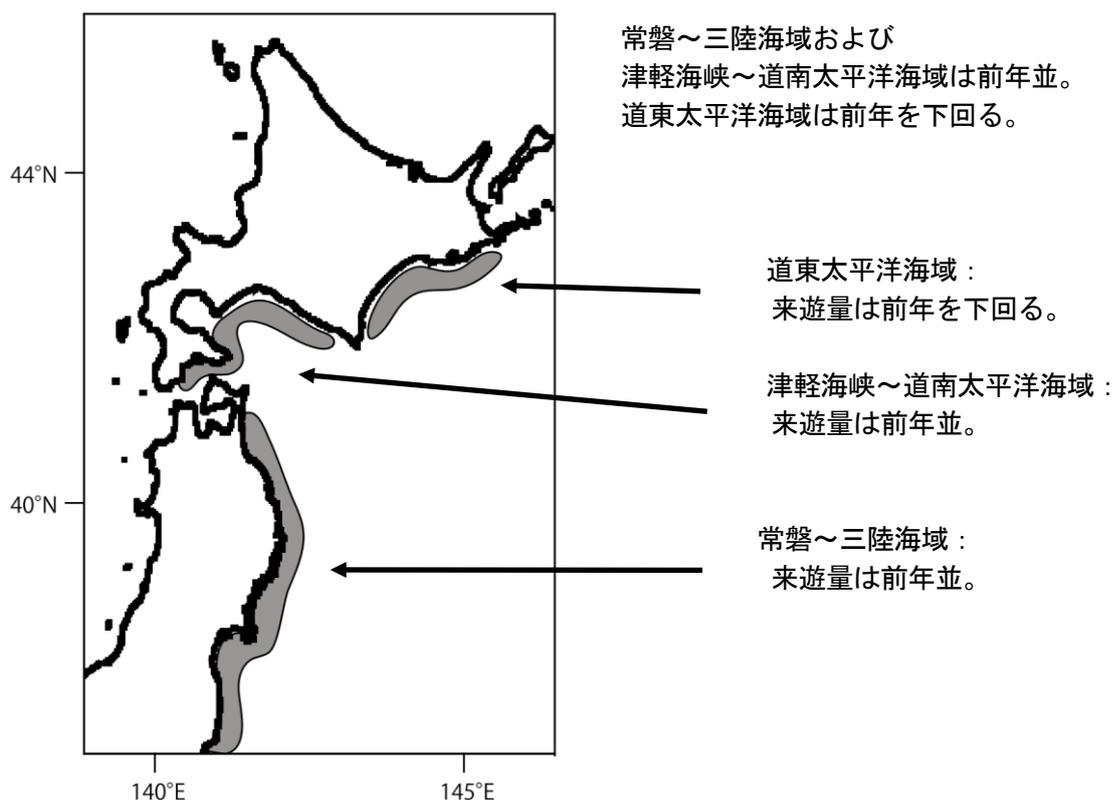


## 2022年度 第1回 太平洋スルメイカ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

### 今後の見通し(2022年9月)のポイント



### 問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 水産情報部  
担当：緑川、藤井、渡邊  
電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881  
当資料のホームページ掲載先URL  
<https://www.jafic.or.jp/information/category/news/>

国立研究開発法人水産研究・教育機構  
<http://abchan.fra.go.jp/>

# 2022年度第1回太平洋スルメイカ中短期漁況予報

## 今後の見通し（2022年9月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：常磐～三陸海域、津軽海峡～道南太平洋海域、道東太平洋海域

対象漁業：いか釣り、底びき網、定置網、まき網

対象魚群：冬季発生系群（2022年級群）

### 1. 常磐～三陸海域（いか釣り、底びき網、定置網、まき網）

(1) 来遊量：前年並。

(2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。

### 2. 津軽海峡～道南太平洋海域（いか釣り、定置網）

(1) 来遊量：前年並。

(2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。

### 3. 道東太平洋海域（いか釣り、底びき網）

(1) 来遊量：前年を下回る。

(2) 漁期・漁場：漁場形成は散発的となる。

## I 予報の説明

第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報公表後の漁況の経過等を主要な情報として、9月におけるスルメイカの来遊量を予測すると、常磐～三陸海域では前年並、津軽海峡～道南太平洋海域では前年並、道東太平洋海域では前年を下回る。各海域における見通しは以下の通りである。

### 1. 常磐～三陸海域

漁獲対象資源は、太平洋沿岸域を北上する群を主体に、津軽海峡から来遊する日本海由来の群が含まれると考えられる。三陸周辺海域（41°N以南、143°E以西）における太平洋第1次スルメイカ漁場一斉調査でのCPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）は0.01尾であり、前年の0.05尾を下回った（図1）。

6～7月の青森県白糠港～宮城県石巻港全体における小型いか釣り漁船の漁況について、6～7月の漁獲量及びCPUE（1日1隻当たり水揚量）は前年を上回った。

8月上～中旬における小型いか釣り漁船による漁況は、以下の通りであった。青森県の白糠港、泊港、三沢港、八戸港における合計漁獲量は前年を上回り（前年190.3トン、本年439.5トン）、CPUEも前年を上回った（前年0.18トン/隻/日、本年0.29トン/隻/日）。岩手県主要7港における合計漁獲量は前年を上回り（前年10.8トン、本年40.8トン）、CPUEは前年を上回った（前年0.03トン/隻/日、本年0.08トン/隻/日）。宮城県（石巻・気仙沼）における合計漁獲量は、前年を上回り（前年0.34トン、本年1.69トン）、CPUEは前年を上回った（前年0.02トン/隻/日、本年0.08トン/隻/日）。青森県白糠港～宮城県石巻港全体における小型いか釣り漁船による漁獲量は前年を上回り（前年201.8トン、本年482.0トン）、CPUEは前年を上回った（前年0.14トン/隻/日、本年0.26トン/隻/日）。

三陸周辺海域における5月下旬～6月下旬の第1次漁場一斉調査でのCPUEは北緯40度以北では前年を上回ったものの、北緯40度以南では前年を下回り、沖合にはほとんど分布していなかった。6～8月中旬における当海域の漁況から判断すると、太平洋沿岸域を北上した群れの来遊量は前年を上回ったと考えられる。一方で、第1次漁場一斉調査の結果から今後、沖合からの加入は期待できない。参考情報として、7月上～下旬に三陸～道東沖合域で実施された表層トロールネットによる調査（三陸～道東沖合域におけるスルメイカの加入量把握調査）の結果を図2に示す。この調査によると、下北半島北部沖の2箇所のみで漁獲があり、漁獲のあった調査点のCPUE（60分曳網あたり漁獲尾数）は前年を下回った。以上の調査結果およびこれまでの漁況経過より、9月における常磐～三陸海域への来遊量は前年並と予測される。

## 2. 津軽海峡～道南太平洋海域

漁獲対象資源は、太平洋沿岸を北上する群と津軽海峡から来遊する日本海由来の群が含まれると考えられる。津軽海峡東口周辺海域（41° N以北、143° E以西）における第1次漁場一斉調査でのCPUEは0.16尾であり、前年の0.03尾を上回った。

6～7月における小型いか釣り漁船の漁況は、大畑港、函館港、浦河港の全体で見ると、6～7月は漁獲量、CPUEともに前年を上回った（6、7月ともに浦河での水揚げはなかった）。

8月上～中旬における小型いか釣り漁船による漁況は、以下の通りであった。大畑港における漁獲量は、前年を上回り（前年3.9トン、本年6.7トン）、CPUEは上回った（前年0.03トン/隻/日、本年0.05トン/隻/日）。函館港における漁獲量は前年を上回り（前年12.7トン、本年21.3トン）、CPUEは前年を上回った（前年0.06トン/隻/日、本年0.20トン/隻/日）。浦河港での水揚げはなかった（前年水揚げなし）。大畑港、函館港、浦河港の全体で見ると、漁獲量は前年を上回り（前年16.6トン、本年28.0トン）、CPUEは前年を上回った（前年0.05トン/隻/日、本年0.08トン/隻/日）。

津軽海峡～道南太平洋海域における第1次漁場一斉調査でのCPUEは前年を下回った。6～8月中旬における漁況から判断すると、当海域への来遊量は前年を上回っていると考えられ、浦河港への水揚げがないことから分布が偏っていると考えられる。また、前述のように表層トロールネットによる調査結果から今後、2021年9月のようにまとまった来遊は期待できないと考えられる。以上のことから、9月における津軽海峡～道南太平洋への来遊量は前年並と予測される。

## 3. 道東太平洋海域

漁獲対象資源は、沖合域を北上する群と考えられる。第1次漁場一斉調査における沖合域（143° E以东）でのCPUEは0.02尾で前年並であったが（前年0.01尾）、有漁点割合は前年を下回った（図1）。

6～7月において道東海域では小型いか釣り漁船による水揚げはなかった。8月上～中旬における小型いか釣り漁船による漁況は、厚岸港、花咲港で水揚げがあり、漁獲量（前年40.3トン、本年1.8トン）は前年を下回り、CPUEは前年を下回った（前年0.34トン/隻/日、本年0.06トン/隻/日）。花咲港では8月中旬以降、散発的な水揚げがみられたが、釧路以西では今期の水揚げはまだみられていない。

FRA-ROMS II\*による9月上旬、下旬の道東沖の50m深予測水温は、9月上旬では厚岸～根室沖で平年より高め、下旬は親潮第一分枝の影響により、襟裳岬～根室沖の沿岸では低め、沖合では平年より高くなると予測される（図3）。道東海域の50m深予測水温から、9月上旬は魚群が来遊しやすい海況となることが予測されるが、第1次漁場一斉調査の結果から沖合域の分布量は前年並に少ないと考えられる。以上のことから、道東太平洋への来遊量は前年を下回ると予測される。

\*国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2022年3月より運用を開始した海況予測システム。本予報には、2022年8月23日にホームページに記載されていた予測情報を使用した。

## Ⅱ 各海域の漁況経過（6～8月中旬）

2022年6～8月中旬の宮城県以北の太平洋沿岸主要港での漁獲量（生鮮：速報値、一部未集計）は1263.3トンで、前年（474.1トン）を上回った。

### 1. 常磐～三陸海域

青森県（白糠港、泊港、三沢港、八戸港）、岩手県（主要7港）、宮城県（気仙沼港、石巻港）における2022年6～8月中旬の合計漁獲量は1185.3トンで、前年（398.6トン）を上回った。旬別の漁況の経過を図4-1に示す。

### 2. 津軽海峡～道南太平洋海域

大畑港、函館港、浦河港における2022年6～8月中旬の合計漁獲量は76.2トンで、前年（35.2トン）の2倍と上回ったものの、2018年同期、2019年同期の1/3と低調な漁獲であった。旬別の漁況の経過を図4-2に示す。なお、浦河港の8月中旬現在の今期の水揚げはない。

### 3. 道東太平洋海域

道東4港（十勝港、釧路港、厚岸港、花咲港）における2022年6～8月中旬の合計漁獲量は1.8トンで、前年（40.3トン）を大幅に下回った。旬別の漁況の経過を図4-3に示す。なお、十勝（広尾）港と釧路港の8月中旬現在の今期の水揚げはない。

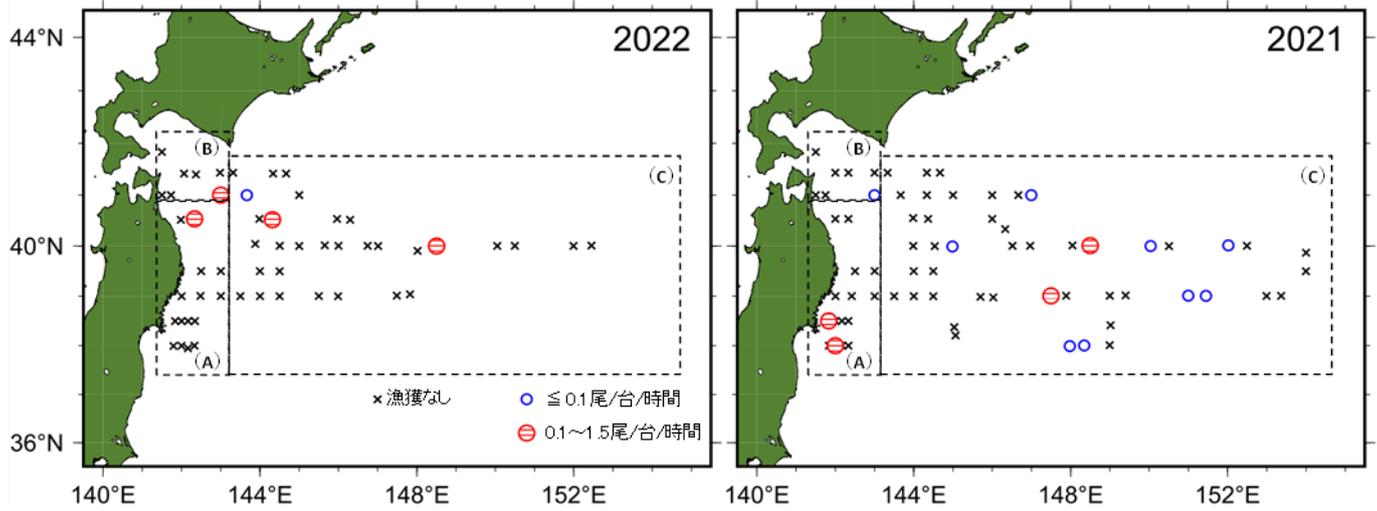


図1. 2021年、2022年5月下旬～6月下旬の太平洋におけるいか釣り調査によるスルメイカのCPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）の分布

⊖ は0.1～0.5尾/台/時間 ○ は0.1尾/台/時間以下の有漁点、×は漁獲なしを表す。破線で囲まれた海域は (A) 三陸周辺海域、(B) 津軽海峡～道南太平洋海域、(C) 沖合域を示す (2022年度第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報図1より抜粋)

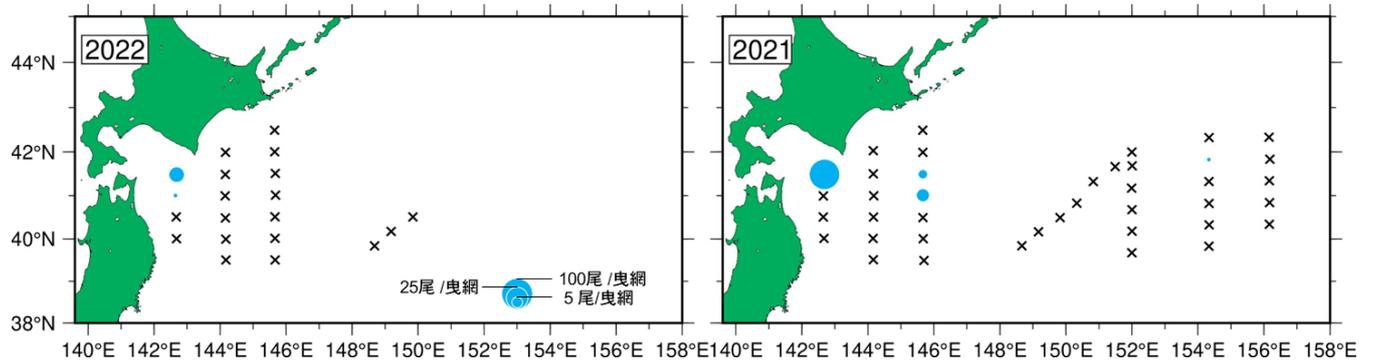
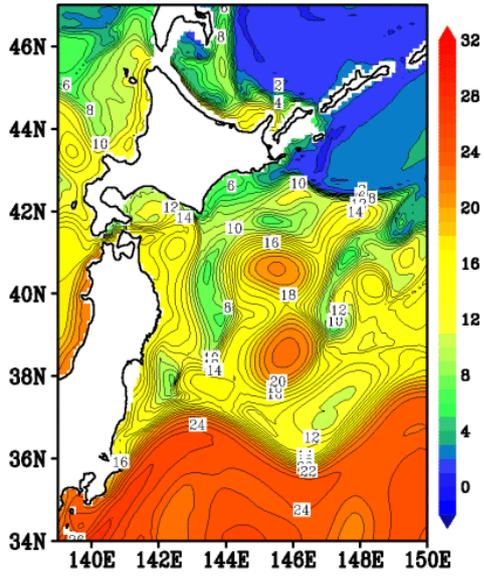
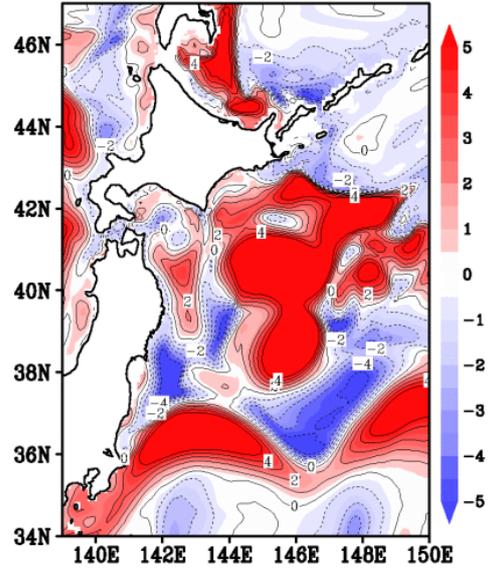


図2. 2021年、2022年7月上～中下旬の三陸～道東沖合域における表層トロール調査によるスルメイカのCPUE（60分曳網当たり漁獲尾数）の分布  
丸の大きさはCPUE、×は漁獲なしを表す。

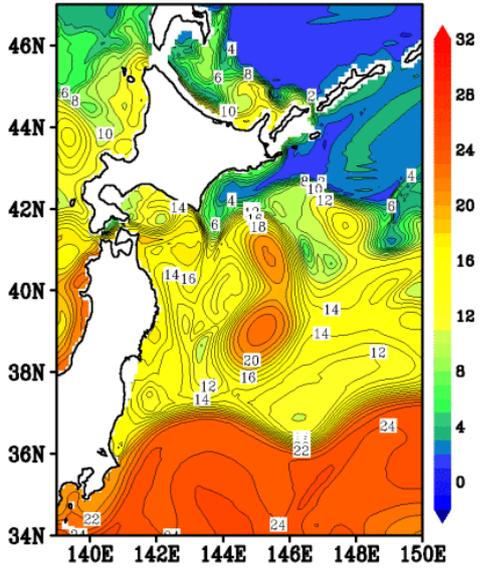
FRA-ROMS II  
2022/09-early Temperature[°C] (50m)



FRA-ROMS II  
2022/09-early Temp. anomaly(Average year)[°C] (50m)



FRA-ROMS II  
2022/09-late Temperature[°C] (50m)



FRA-ROMS II  
2022/09-late Temp. anomaly(Average year)[°C] (50m)

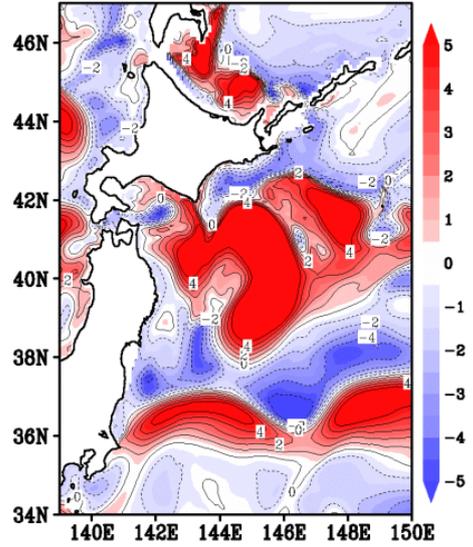
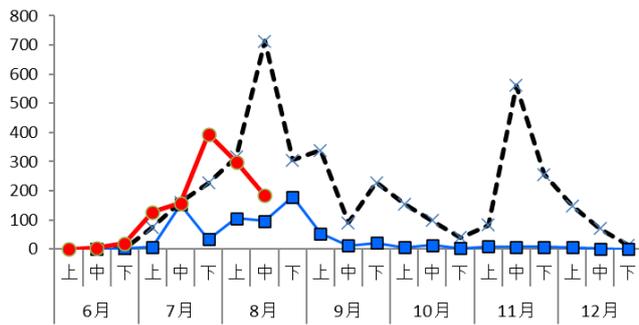


図3. 海況予測システムFRA-ROMS IIによる2022年9月上旬と下旬の50m深予測水温(左図)および平年差(右図)

注：50m深はスルメイカの代表的な分布深度

漁獲量(トン)



CPUE(トン/隻)

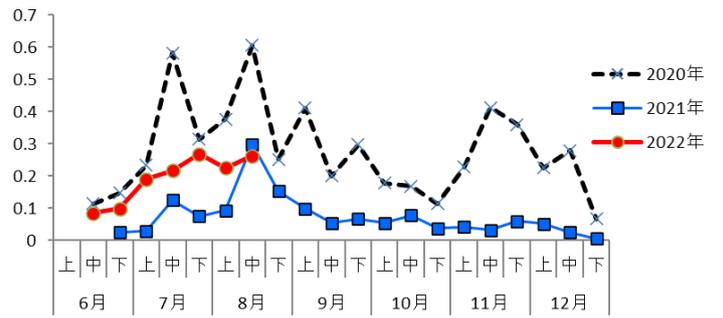
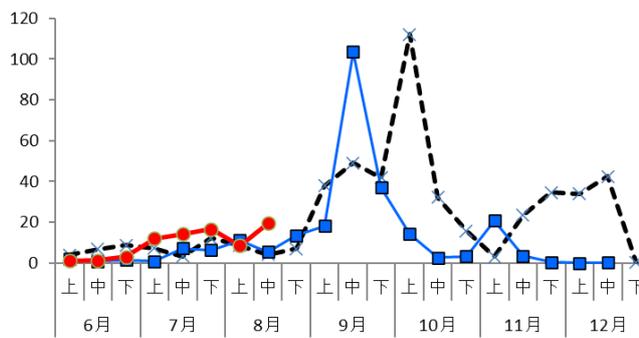


図4-1. 常磐～三陸海域の主要港におけるスルメイカの釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE  
(CPUEの計算は、白糠港～大船渡港のデータを使用)

漁獲量(トン)



CPUE(トン/隻)

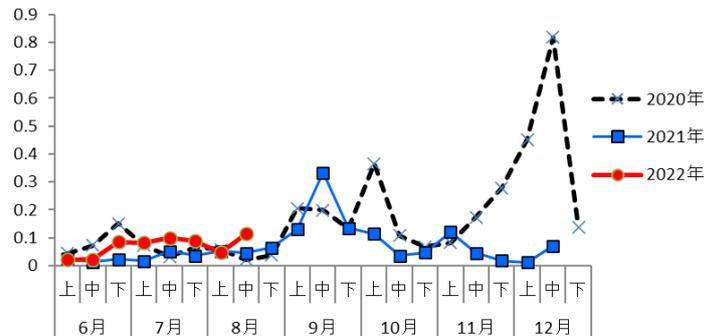
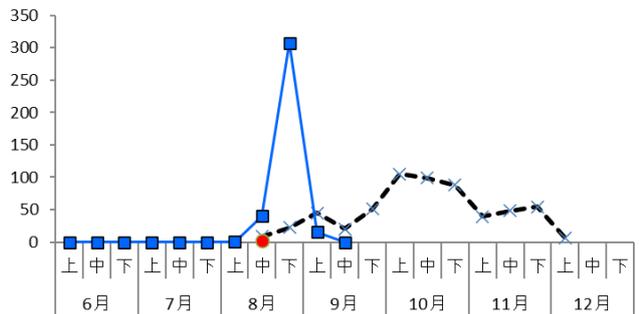


図4-2. 津軽海峡～道南太平洋の主要港におけるスルメイカの釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE

漁獲量(トン)



CPUE(トン/隻)

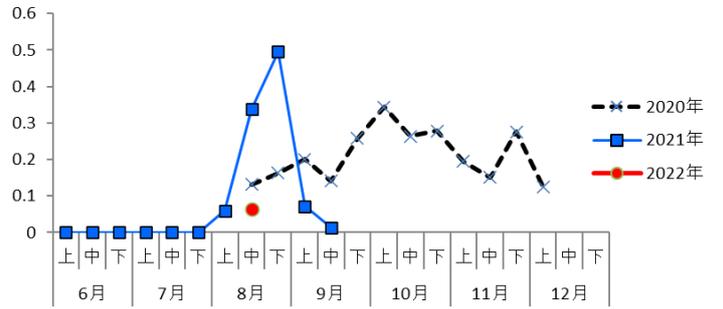


図4-3. 道東太平洋の主要港におけるスルメイカの釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE

注：CPUEは1日1隻当たりの漁獲量（トン/隻/日）

## 参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場	三重県水産研究所
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	和歌山県水産試験場
岩手県水産技術センター	高知県水産試験場
宮城県水産技術総合センター	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所
福島県水産海洋研究センター	(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター
茨城県水産試験場	
千葉県水産総合研究センター	
神奈川県水産技術センター	
静岡県水産・海洋技術研究所	